

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義演習
科目名	基礎看護実践論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	1学年		学期及び曜時間	後期	教室名	1A・1B 教室・実習室
担当教員	弓場 理紗子	実務経験と その関連資格	病棟で8年勤務			
《科目目標》						
①看護場面において基本的姿勢をもって実践できる ②模擬実践を通して、自己評価・他者評価を踏まえて適切な看護実践に向けた今後の自己の課題を明確にすることができる。						
《成績評価の方法と基準》						
【評価方法】授業態度(20%)と終講試験(40%)、課題レポートと技術演習(40%)を含め合計100点満点で評価する。 但し、課題提出遅れや授業中の私語の多さ、積極性や協同性の欠如が見られた場合は減点対象とする。 【評価基準】優:80点以上、良:70点以上80点未満、可:60点以上70点未満、不可:60点未満						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
デジタルナーシンググラフィカ 1巻 解剖生理学P76～ デジタルナーシンググラフィカ 7巻 呼吸機能障害/循環器障害P77～、 デジタルナーシンググラフィカ 20巻 基礎看護技術Ⅱ デジタルナーシンググラフィカEX1巻						
《授業外における学習方法》						
課題学習 模擬実践の内容で技術に関する練習 リフレクションシートや課題レポートは提出期限を厳守						
《履修に当たっての留意点》						
看護実践の構成要素は知識・技術・態度である。実践では看護技術の選択と実践方法はそれぞれの看護師の判断が伴う。身体的な問題では対象の解剖生理を含む病態から状況判断が必要となる。その時フィジカルアセスメントを含む観察技術が必要となる。次に患者の問題解決のための看護実践技術が必要である。提供する看護技術の根幹は「患者の尊厳を大切にすること」という看護者の倫理的態度である。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護師に求められる実践能力が理解と、自身のビジョンが明確になる	教科書	厚生労働省の示す看護師に求められる実践能力と構成要素から当校の科目から実践力についてどこまで学んできたか理解する	
	各コマにおける授業予定	看護実践力の何を学び、これから習得する内容は何かあるか？ ビジョンゴールを記載して、自分の強化すべき技術や課題を見出す				
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	事例に対して必要な観察項目が何か理解できる	教科書	既存の知識で観察を行い、リフレクションで症状の把握に必要な観察項目は何かを考える	
	各コマにおける授業予定	【演習:実習室】 事例に対して、既存の知識を用いて対象の状態を観察するリフレクションを行い、自己の観察項目に追加して何が必要か考える				
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	事例① 発熱の病態と対象の顕在する問題の理解ができる	課題 教科書、タブレット	解剖整理学P81の図の説明ができる	
	各コマにおける授業予定	体温の調節のメカニズム 発熱時(悪寒戦慄時・高熱時・体温下降時)の病態を解剖整理の理解を含めて復習する				
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	事例① 発熱時の援助計画の立案ができる①(GW)	援助計画 教科書、タブレット	援助計画を立案して受講すること GW	
	各コマにおける授業予定	悪寒戦慄時、高熱時、解熱時それぞれの援助計画を立案する				
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	事例① 発熱時の援助計画の立案ができる②(GW)	援助計画 教科書、タブレット	援助計画を立案して受講すること GW	
	各コマにおける授業予定	悪寒戦慄時、高熱時、解熱時それぞれの援助計画を立案する				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	事例① 模擬実践を行い、援助計画の追加修正が出来る	援助計画、教科書、タブレット リフレクション用紙	立案した援助計画を持って受講すること 技術の経験:温罨法・冷罨法・安楽な体位・環境調整等
		各コマにおける授業予定	【演習:実習室】 立案した援助計画をもとに、技術ごとで模擬実践を行う リフレクションを行い、発熱のある患者の看護計画を修正する		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	事例① 発熱時(悪寒戦慄・高熱)の模擬実践を行い、評価ができる	教科書、タブレット リフレクション用紙 自己評価表 他者評価表	修正した援助計画を持って受講すること 技術の経験:安楽な体位・
		各コマにおける授業予定	【演習:実習室】 立案した援助計画をもとに、模擬実践を行う 発熱のある患者の看護計画を修正する 演習後半には、リフレクションを行う		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	事例② 呼吸困難の病態と対象の顕在する問題が理解できる	課題 教科書、タブレット	課題作成
		各コマにおける授業予定	事例(COPD)の患者の場面		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	事例② 病態の理解から必要な観察項目が導くことができる	課題 教科書、タブレット	課題をもって受講する
		各コマにおける授業予定	呼吸困難出現及び意識レベルの低下の状況をアセスメントする		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	事例② 援助計画立案	援助計画 教科書、タブレット	援助計画をもって受講するGW
		各コマにおける授業予定	呼吸困難出現の場面の援助計画を立案する		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	事例② 援助計画立案	援助計画 教科書、タブレット リフレクション用紙	援助計画をもって受講するGW
		各コマにおける授業予定	呼吸困難出現の場面の援助計画を立案する		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	模擬実践を行い、援助計画の追加修正が出来る①	援助計画、教科書、タブレット リフレクション用紙	立案した援助計画を持って受講すること 技術の経験:VS測定・安全安楽な体位・移動・報告
		各コマにおける授業予定	【演習:実習室】 立案した援助計画をもとに、技術ごとで模擬実践を行う 援助計画を修正する		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	模擬実践を行い、援助計画の追加修正が出来る②	教科書、タブレット リフレクション 自己評価表 他者評価表	立案した援助計画を持って受講すること 技術の経験:VS測定・安全安楽な体位・移動・環境調整・報告
		各コマにおける授業予定	【演習:実習室】 立案した援助計画をもとに、技術ごとで模擬実践を行う 援助計画を修正する		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	援助計画に基づき、援助・問診を含む観察を実施し、評価ができる。 また、自己の課題がわかる	教科書、タブレット リフレクション 自己評価表 他者評価表	立案した援助計画を持って受講すること 技術の経験:VS測定・安全安楽な体位・移動・環境調整・報告
		各コマにおける授業予定	【実技試験を含む実技演習】 発熱か呼吸困難の場面で立案した援助計画を実施できる 実施後は、自身で振り返りを行い、自己の課題を明確にする		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	援助計画に基づき、援助・問診を含む観察を実施し、評価ができる。 また、自己の課題がわかる	教科書、タブレット リフレクション 自己評価表 他者評価表	立案した援助計画を持って受講すること 技術の経験:VS測定・安全安楽な体位・移動・環境調整・報告
		各コマにおける授業予定	【実技試験を含む実技演習】 発熱か呼吸困難の場面で立案した援助計画を実施できる 実施後は、自身で振り返りを行い、自己の課題を明確にする		